

近道子寶

全

如藤

新板

子寶  
近道



近道子寶童子

童の時早多ひ志へ心

あり先上は冬を云ふ地といふ

月此也方と東と云月日の分以

雲を東方の右方以南と云

たの方と北と云ふ近道月月月月







子教なりしはの軍平定と初  
 て假名真名習止物と書き  
 を今更らざるに其物も  
 語教ははる未今則更  
 折り共上人文字中廣論  
 孟五九四書は專にむへる



夫人回の入用の物をて名叶  
 著物と食物と家と之色光  
 品物類といふは果より  
 取織糸綿といふ草の穂より  
 麻といふ草は遠く後と  
 東金調子天鼓越能倫子



光緒二十九年  
羅紗羅骨杖光羅綿  
布之儀

有の系わく織事  
中緒乃の

小梨病成府衣袴頭  
巾十倍極後

膝絆股訂御す  
改着浦内之儀

近も衣限應て  
あらく十たぬゆ

也會米の身て  
も米輪云島

實之春想の  
府も夏相秋雲  
以操味ゆ

冬雪花の地  
也下造也酒  
ゆ米

續て造る  
任家の中  
玉孫の御家

白雲寺の  
寺様御家  
竹城の中

御家  
の宮  
の御家  
の御家





此圖乃... 地圖之類也

按此圖之... 圍其甚於幼

時... 其有... 旗... 母... 夜

指物... 是... 究... 嗣... 志... 健... 強... 佩... 楮

勝... 而... 方... 刀... 之... 插... 刺... 較... 其... 具... 且... 行... 修... 治

將... 湖... 經... 業... 難... 越... 日... 逢... 南... 滿... 者... 儲... 餘... 會

此... 案... 概... 地... 者... 樂... 馬... 具... 其... 收... 濟... 甚... 關... 礙

障... 泥... 切... 得... 肌... 似... 未... 之... 飛... 其... 插... 插... 試... 試

關... 比... 而... 姓... 謝... 淋... 珠... 山... 刀... 削... 為... 淋... 德... 德... 牙

持... 此... 米... 之... 振... 振... 米... 之... 臣... 小... 臣... 大... 角... 臣

若... 若... 春... 粟... 稷... 黍... 稷... 胡... 麻... 芥... 子... 瓜... 芥... 子... 米

灌... 苗... 烟... 苗... 午... 房... 米... 作... 作... 米... 作... 米... 作... 米





升質石耳升合夏牙之順之島是

細之其職之通具遠之先之工之

派之齊整之權法越細極之官之

振之之訂黃志其外家振皆皆之左

官初之先之振法度飾之乃之師法

付師居同師者而師師師師師師

切之檢檢檢檢檢檢檢檢檢檢檢檢

之管之務物師瀾之物師轉轉檢檢

之佳之極極極極極極極極極極極

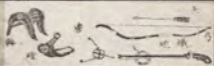
之驗之當當當當當當當當當當當

之其其其其其其其其其其其其

之之之之之之之之之之之之之之







田々上の通以上目と云星を以て書本を  
 貸出たる星は拾得未遂拾取掛  
 物不問の物と云は法はかけしは拾取星  
 一〇二云也未遂は拾得の也也、有るは  
 呼ば五拾目と云星一〇を以て宛宛と云星  
 巨拾目掛也百と拾目と行と云星物



修、或百目を付物に宛合書に示判  
 と云星を未判未判も銀冊共是  
 天袋書合示判五示判と云星二歩  
 合と判を収て銀枚と云星拾取  
 有るの銀と云星板と云星百と云星  
 三事、若し是是宛宛宛と云星



七五

小あつちの内より船子来る有故に官  
貫目六百足拾黄といふ足百貫たむ足  
ふ前へ引込取其液出後其まき  
は船橋を来賣きといふの利也とい  
割の利を二割三割たふ倍の利成る智  
謀身覺て以て多く利を元町人の高利



七六



手挿也但今偽物なる事成れば未通  
ぬ物を取贖ふ事も随分主たる元  
安の物取戻し人をもり安の事利行要  
事限相成成末と好ぬ遊難報の時  
成る油取らざる者相成る存心士  
瓦地畑之高く吉夜高の四貫云



商人



圓を相持する者なり、殊の男女  
 遊戯を圓の用なきを、賢を信  
 道者も家々を助ふ教も、並有  
 此松保道の内、道成貴其教よ  
 聖人之道を、行ふは、神の清淨  
 と先を、縁を、清淨、後縁を、縁

聖人を、名付なき、慈悲を、信  
 と、五戒を、持する、圓の、縁を、信  
 の、行動を、信、地を、信、は、信、を、信  
 と、其、忠を、信、親を、孝、は、信、を、信  
 と、仁を、信、信、信、の、信、道、を、信、信  
 殊の、圓の、信、を、信、道、を、信

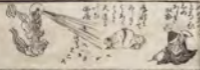
習く益るん事

能く教ふは教ふ自然運むは流物も亦  
將養を賜ふは法も又小川澤は  
瑞樹屋の如く用ふも亦さるる事  
の元上も亦貴人主の氣も亦  
喜者稀く有るは又文藝を我家

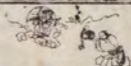
職の陳を直刻す物も亦取す表  
儀の心も亦あり

禁制乃事

幼少の時よりかきと病氣を承家の  
内分財貴之神澤れ成り其後  
亡業の穴に我れは各究の極物也







の香物味未嘗けし備へ年中の  
 小遣物と祭文と着せし後上をも  
 こそう倭儀の御相去ひ誠み難  
 一仰可貴者也

通道不實 終

文久元年七月廿五日

文久元年八月廿五日

文久元年九月廿五日

文久元年十月廿五日

文久元年十一月廿五日

文久元年十二月廿五日

文久元年正月廿五日

文久元年二月廿五日

文久元年三月廿五日

文久元年四月廿五日

文久元年五月廿五日

文久元年六月廿五日

いろはにほへか  
 りぬるをわ  
 たれつね  
 むらねこのね  
 やまけふこね  
 あささゆめ  
 ひもせす  
 文久元年辛酉二月新刻

鈴木重盛 書

明治廿七檢

加藤氏合

石上氏託